

## ルカの福音書 第20章 38節

「神は死んだ者の神ではありません。生きている者の神です。というのは、神に対しては、みなが生きているからです。」

死は人を含む天地万物が抱える出来事です。草花が季節ごとに枯れ地にかえっていきます。立派にそびえ立っていた木立もやがて葉を落とし、枯れ枝が朽ち、幹が横になり、苔むします。これらの姿がやがて死に向き合う人の行く末を教えてください。自然に囲まれている人々ほど死の前でうろたえず、人の手で全てを動かすと錯覚している都会はそうでないといわれます。

いずれにしても、死は人々に特別な思いをもたらします。人の死となれば、本人のみならず、関わりある人々のところを揺さぶり、周辺の様子を一変させるほどの出来事となります。誰も逃れられないことです。

天地万物が死の前に膝まずいてしまいます。その死に向き合い、その死の向こうまで見据えて語られる神がいます。神は死んだ者の神ではありません。神は生きなさい、生きられると告げます。死に直面する者、死んだような者に生きなさいと語ります。

生きている者の神です。迫る死に勝つ、よみがえりのいのちを注がれる神です。この神に対しては、みながよみがえりのいのちを生きています。

2023年5月18日